

# グラフィックデザイン作品整備業務研修についてのレポート

武澤里映

## 1. はじめに

今回の研修では、一週間にわたり、グラフィックデザイン資料の整理や梱包などについて体験を通じ教わった。実際的な業務については勿論、資料整理や資材製作など、広範囲の研修を行うことができた。

## 2. 研修日程

- 7月30日(火) 13:00~16:00
- 7月31日(水) 9:30~11:45/13:00~16:00
- 8月1日(木) 9:30~11:45/13:00~16:00
- 8月2日(金) 9:30~11:45/13:00~16:00
- 8月5日(月) 9:30~11:45/13:00~16:00
- 8月6日(火) 9:30~11:45/13:00~16:00
- 8月7日(水) 9:30~11:45

## 3. 研修内容

研修は、(ア)グラフィック資料の収蔵について、(イ)クラシック・ポスターの作品管理実務、(ウ)早川良雄作品、アーカイブ資料整備、(エ)収蔵資材製作、(オ)梱包について、(カ)コンディションチェックについての6つの内容を行った。<sup>1</sup>以下、これらの作業について詳しく説明する。

### 3-1(ア)グラフィック資料の収蔵について

研修一日目の7月30日には、グラフィックデザイン資料についての基本的な知識に関する講義が行われた。グラフィックとは、グラフィックデザインとは、グラフィックデザインと美術館、収蔵について、グラフィックデザインの種類、グラフィックデザインの数、グラフィックデザイン、収蔵について、グラフィックデザインの保存についてなど、多岐にわたる項目について、実際に収蔵庫内を回りながら教えていただいた。これらの項目以外にも、グラフィックデザインの歴史やその背後にある印刷技術の発展史などについても説明があり、中之島美術館のポスター作品のみならずグラフィック作品全般の基礎的な知識を学ぶことができた。

### 3-2(イ)クラシック・ポスターの作品管理実務

大阪中之島美術館には、多数のポスターのコレクションを棚に入れ保管している。この項目では、棚の中に実際に収蔵されているポスターが、事前に調査されていたリストと対応していることを確認する作業を行った。確認はポスター作品裏面に記載された作品番号を以て照合された。引き出しごとにリスト上の作品番号と実際の作品番号との確認を行っていた。

### 3-3(ウ)早川良雄作品、アーカイブ資料整備

早川良雄は戦後日本のデザイナーであり、京阪百貨店などのポスターに代表される顔を

---

<sup>1</sup> 業務内容の区分については、インターンのオリエンテーションの際の資料を参照した。

描いた作品や、国立国際美術館のロゴマークを手がけた人物である。大阪中之島美術館は遺族の方より早川良雄作品や資料の寄贈を受けており、本研修ではそれらの資料整理を行った。研修内容は書籍資料の冊数確認や文献情報の整理、ポスター資料の枚数確認、情報整理やそれらの写真撮影などに加え、原画資料の点数確認やそれらの梱包なども行った。

書籍資料の整理では、早川良雄が手がけた装丁本や作品が紹介されている展覧会図録などの様々な書籍のタイトル、著者、出版社、出版年などの基本的な文献情報に加え、サイズなどの情報を紙にまとめた。資料を触る際にはニトリル手袋や白手袋といった手袋をはめ、サイズを測る際には資料を傷つけないよう軟らかいメジャーを用いサイズを測った。

ポスター資料の作品整理の際には、最初に数を測る際に、ポスターが膨大であることと、確認作業を簡略化されることから、10枚ごとにのりづけのない付箋をはさみ、数を数えていった。ポスターを扱う際には書籍と同様手袋の着用が必須であり、ポスターを曲げないように作業することが求められた。集計の後、ポスター資料の情報をまとめる作業に移った。まず、記録者と記録日の情報を書いたのち、ポスターの作品名、クライアント、制作年、サイズなどの情報を記入し、裏面の情報や同じデザインのポスターがあった際には備考欄に記していく。ポスター作品には明確な作品名が付されていない場合が多く、記入者によって作品名を仮に決めなくてはならない。ポスターに描かれている最も大きな文字やモチーフの色や特徴を仮の作品名とし、記入を行っていった。また、クライアント名は企業名や展覧会の主催者の名前を書いた。情報の整理がおわったポスターは情報を整理する際につけた通し番号とともに写真を撮影した。写真では、文字情報がはっきりと見えるか、ピントがぼけていないか、全体がきれいに入っているか、通し番号が入っているかなどに注意しながら撮影した。

原画資料の整理では、まず原画を大きさごとに分け、それぞれに個数を確認し、ある程度の塊で梱包していく作業を行った。(図1)

### 3-4(エ)収蔵資材製作

この研修では、ポスター資料を引き出しの中に収蔵する際に、ポスターの反り返りを防ぐためのおもしを作成した。作品に直接触れる資材のため、アーカイバルボードや薄葉紙といった、紙を中性に保つことのできる材料を用いた。7センチほどの幅に細長く切ったアーカイバルボードを二枚重ねたものを薄葉紙によって覆い、マスキングテープによってそれを留め完成させた。(図2)

### 3-5(オ)梱包について

ここでは作品を梱包する方法についての研修が行われた。作品それ自体を梱包する場合と、額縁を梱包する場合とで、どちらも実際に体験しながら研修を行った。薄葉紙、板ダンボール、茶紙、エアークッションによる4層の梱包を学んだ。作品をそのまま梱包する際には、まず、作品に最も近く接する梱包には薄葉紙が使われ、その際には、テープなどののりのついたものは作品を傷める恐れがあるため、薄葉紙を割き細長くひも状にしたものを使い、それによって結ぶ。薄葉紙には裏表があり、つるつるとした面が作品に触れるよう

にすることを教わった。次に資料の大きさに合わせて切った板ダンボールによって資料を挟み、それを紐をかけ結ぶ。その後、上から茶紙で覆い、マスキングテープによって固定する。最後に、その上からエアークラップを重ね、それを養生テープで留める。また、作品は傷まないよう平置きされることが一般的であるため、梱包の上からマジックで平置と明示することも必要だと教わった。

額縁にすでに入っている作品の梱包についても教わった。ポスター作品は紙の反り返りなどを配慮し、作品上部のみが留まっている額装もあることを習い、そうした作品があることから、梱包の上から天地を記すことが重要だと知った。

### 3-6(カ)コンディションチェックについて

コンディションチェックでは、資料のしみや破れといった細かな情報まで確認し、コンディションレポートという作品画像が印刷された用紙に書き込んでいく作業を行った。(図 3、図 4)この作業は、作品を他の施設に貸出し返却された際に新たな損傷が出ていないかどうかという損害賠償や保険とも関わる問題に必要とされる作業であり、作品の貸出や返却の際には、貸した館と借りた館双方でのコンディションチェックが行われるという。借りた後になにか新しく資料に傷がついていないかどうかを確かめるために必要な工程だということを知り、学芸員の方が行っている様子を見たのちに、実際に研修生も、ミュシャの作品をコンディションチェックさせていただいた。資料に近づき作業を行うため、手袋やマスクが必要とされることや、資料の細かいしわやシミなどを、ライトを使い照らしながらかきつけていくことを学んだ。また、チェックをいつだれが行ったかを必ず記さなければならないことも知った。

## 4.研修の感想

まず研修の際に最も驚いたのは、実際の資料に触れることのできる機会の多さだった。常に学芸員の方が見ている中で、実際のポスターや関連資料に触りながら学芸員の業務について知ることができたのは、このインターンを経験することでしか得られない貴重な経験をさせていただいたと感じている。ポスターは勿論、原画資料などは今回の研修で初めて触れ、緊張したがとても勉強になった。実際の資料に触れ、その資料の取り扱いや素材の特性などを感じることで、一般に美術館などで観賞する際よりも多くの情報を得られ、資料に接することの重要性や求められる専門性についても考えが深まった。また、そのような資料の取り扱いについて学芸員の方から指示をいただいたり学芸員の方の業務を見ながら、学芸員という職業が持つ高い専門性を目の当たりにすることができた。研修の中に梱包資材の製作や収蔵資料の製作という項目があることを知った当初は、こうしたことも学芸員の仕事であることに驚いたが、実際の研修中ではそうした業務もまた資料に対する理解が必要であることが分かり、資料を起点として広範に専門性を発揮する特殊性に改めて気づくことができたと感じる。ポスターを扱う業務の重労働さもこの研修を通し初めて知り、改めて学芸員が求められる業務の多様さと密度を感じた。

また、研修の中でポスターや資料の整理作業に関わり、段階を追った綿密な資料整理の大

変さと重要性を強く感じた。一つ一つの作業自体は、数を数えたり情報を記載したりという  
ようなものであったが、それらの作業が実際に作品のデータとして残っていくという事実は責任を伴う一方で、やりがいを強く感じるものだった。特に、今回のグラフィックデザイン作品の整理の中では、京阪百貨店のポスターや展覧会図録など、身近に普段接するものが資料となって作品として情報がまとめられていく過程はとても興味深く、資料化の過程での学芸員の業務の比重の大きさを感じた。



図1 原画資料の整理風景

撮影者 武澤里映 撮影日 2019/8/6

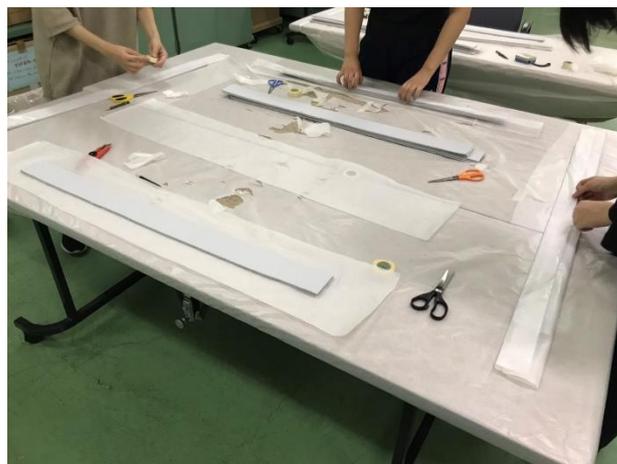


図2 収蔵資材の製作風景

撮影者 武澤里映 撮影日 2019/8/1



図3 コンディションチェックの様子

撮影者 竹本早織 撮影日 2019/8/5